

富士養鱒場だより

第206号

平成22年4月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://www6.shizuokanet.ne.jp/fujimasu/>

平成21年サケ科魚類の生産と魚病被害の状況

平成21年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況がまとまりましたので報告します。

1. 調査方法

県内でサケ科魚類を養殖している経営体にアンケート表を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量、被害額を調査しました。

調査期間は平成21年1月1日から12月31日までの1年間としました。

表1 アンケート調査状況

魚種	経営体数	回収数	回収率(%)	20年
ニジマス	24	24	100	23
ギンザケ	3	3	100	4
アマゴ	32	28	88	33
イワナ	10	10	100	8
その他	7	7	100	8

※その他にはヤマメ、サクラマス、ブラウントラウト、カワマスが含まれる

2. 結果

(1) アンケート回答状況

魚種ごとの回答状況を表1に示しました。アマゴ以外は100%の回答が得られました。経営体数はニジマスとイワナがそれぞれ1軒、2軒増加し、アマゴが1軒減少しました。実経営体数は46軒で、昨年より1軒減少しました。

(2) 魚種別生産状況

平成17年から21年までの生産量の推移を表2、生産金額の推移を表3、販売単価の推移を表4に示しました。総生産量は20年

表2 魚種別・年別生産量(t)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H17	1,932	68	41	88		2,129
H18	1,757	66	72	87	17	1,999
H19	1,778	63	37	72	34	1,984
H20	1,623	15	35	92	34	1,799
H21	1,757	21	32	124	22	1,955

表3 魚種別・年別生産金額(百万円)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H17	806	45	58	62		971
H18	752	47	100	63	19	981
H19	906	50	46	55	28	1,086
H20	806	24	47	70	22	969
H21	849	31	51	93	16	1,039

表4 魚種別・年別販売単価(円/kg)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	全体
H17	417	668	1,412	701	456
H18	428	705	1,395	724	485
H19	510	798	1,255	766	547
H20	496	1,655	1,355	760	538
H21	483	1,457	1,592	745	532

と比べ150tあまりの増加となりました。生産金額も増加となり、サケ科魚類全体の生産額は2年ぶりに10億円を超えました。

① ニジマス

生産量は1,757トンで、平成20年と比べ134トンの増加となりました。生産金額も20年と比べ4,300万円あまりの増加となりましたが、販売単価は13円/kgの減少となりました。

② ギンザケ

生産量、生産金額ともに昨年からやや増加しましたが、20年から河川工事による一部業者の休業が続いており、休業前の平成19年と比較して、生産量は3分の1、生産金額は6割程度となりました。

③ アマゴ・イワナ

アマゴについては生産量、生産金額とも平成19年からほぼ横ばい、イワナについては生産量が平成20年から32トンの増加、生産金額が2,300万円の増加となりました。販売単価はアマゴが237円/kgの増加、イワナは横ばいとなりました。

表5 魚病被害量

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H17	219,300	6,000	620	11,000	236,920
	11.4	8.8	1.5	12.5	11.1
H18	143,857	4,500	3,350	4,950	156,657
	8.2	6.8	4.7	5.7	7.9
H19	176,400	2,000	1,375	6,655	186,430
	9.9	3.2	3.7	9.2	9.4
H20	117,731	500	3,685	5,700	127,616
	7.3	3.4	10.6	6.2	7.1
H21	119,230	0	1,450	1,500	122,180
	6.8	0.0	4.6	1.2	6.3

上段:被害量(kg)
下段:生産量に占める割合(%)

(3) 魚種別魚病被害状況

平成17年から21年までの魚病被害量を表5、被害金額を表6、平成20年と21年の魚種別、疾病別の被害状況を表7に示しました。総被害量は20年と比べて5.5tあまりの減少、被害金額は2,300万円減少しました。生産量に占める被害量の割合は6.3%となりました。

表7 魚種別・疾病別被害状況 (左:被害量(kg)、右:被害金額(千円))

	被害量(kg)				合計
	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	
IPN	0	0	0	0	0
	0	0	0	400	400
IHN	36,060	0	220	0	36,280
	18,625	0	200	200	19,025
EIBS	0	0	0	0	0
	0	500	0	0	500
ビブリオ病	5,800	0	0	0	5,800
	12,050	0	0	0	12,050
せっそう病	0	0	330	1,200	1,530
	50	0	2,900	5,100	8,050
冷水病	2,100	0	0	0	2,100
	1,600	0	20	0	1,620
レンサ球菌症	35,000	0	0	0	35,000
	36,700	0	0	0	36,700
細菌性鰓病	13,120	0	0	0	13,120
	16,376	0	220	0	16,596
白点病	2,000	0	0	0	2,000
	2,150	0	60	0	2,210
イワナ双症	3,350	0	0	0	3,350
	3,550	0	0	0	3,550
ミズカビ病	10,000	0	0	0	10,000
	11,000	0	70	0	11,070
不明	11,800	0	900	300	13,000
	15,630	0	215	0	15,845
合計	119,230	0	1,450	1,500	122,180
	117,731	500	3,685	5,700	127,616

上段:平成21年
下段:平成20年

表6 魚病被害金額

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H17	123,010	7,240	1,503	10,200	141,953
	15.3	15.9	2.6	16.5	14.6
H18	84,110	7,240	4,600	4,100	100,050
	11.2	15.6	4.6	6.5	10.2
H19	122,135	800	2,167	4,459	129,561
	13.5	1.6	4.7	8.1	11.9
H20	75,659	500	3,906	4,240	84,305
	9.4	2.1	8.3	6.0	8.7
H21	57,803	0	2,051	1,410	61,264
	6.8	0.0	4.0	1.5	5.9

上段:被害金額(千円)
下段:生産金額に占める割合(%)

① ニジマス

平成21年の被害量は119.2t、被害金額は5,780万円となりました。平成20年と比べ、被害量は横這い、被害金額で76.4%となりました。疾病別ではIHNの被害量が平成20年の2倍となりましたが、被害金額はほぼ横這いとなりました。レンサ球菌症の被害量は平成20年からほぼ横ばいですが、ニジマスの全被害量、被害金額の約30%を占めました。その他ではビブリオ病が被害量、被害金額ともに平成20年の半分程度となりました。

② ギンザケ

本年度被害はありませんでした。

	被害金額(千円)				合計
	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	
IPN	0	0	0	0	0
	0	0	0	800	800
IHN	21,155	0	22	0	21,177
	23,245	0	400	240	23,885
EIBS	0	0	0	0	0
	0	500	0	0	500
ビブリオ病	2,900	0	0	0	2,900
	6,020	0	0	0	6,020
せっそう病	0	0	554	660	1,214
	20	0	2,958	3,200	6,178
冷水病	1,146	0	0	0	1,146
	1,940	0	19	0	1,959
レンサ球菌症	16,120	0	0	0	16,120
	16,150	0	0	0	16,150
細菌性鰓病	6,572	0	0	0	6,572
	10,376	0	70	0	10,446
白点病	2,000	0	0	0	2,000
	3,105	0	60	0	3,165
イワナ双症	1,350	0	0	0	1,350
	720	0	0	0	720
ミズカビ病	1,800	0	0	0	1,800
	6,940	0	150	0	7,090
不明	4,760	0	1,475	750	6,985
	7,143	0	249	0	7,392
合計	57,803	0	2,051	1,410	61,264
	75,659	500	3,906	4,240	84,305

上段:平成21年
下段:平成20年

③ アマゴ

平成 21 年の被害量は 1.5t、被害金額は 205 万円でした。平成 20 年は特に大型魚においてせつそう病の被害が多く、かなり大きな被害が出ましたが、今年度は減少し、被害量、被害金額とも平成 19 年に近い値となりました。疾病別ではせつそう病と IHN の被害が見られました。

④ イワナ

平成 21 年の被害量は 1.5t、被害金額は 141 万円となり、平成 20 年と比べ大幅に減少しました。疾病別ではせつそう病による被害が見られました。

(岡田裕史)

養鱒研究会が開催されました

平成 22 年 2 月 15～16 日にかけて、富士養鱒漁業協同組合において養鱒研究会が開催され、養鱒業関係者 23 名と水産技術研究所富士養鱒場の職員 4 名が参加しました。

今回、平成 21 年度意欲ある漁業者による自主的活動の支援事業における講習会として岐阜県河川環境研究所の中居裕資源増殖部長より、「消毒の基本を見直そう」というテーマで講演をしていただきましたので、その概要を以下にお知らせします。

防疫対策について考えると、飼育水から病原体を取り除くことが最も重要で、次に外部からの病原体の侵入を防ぐことが重要である。そこで、外照式紫外線殺菌装置を用いた飼育水の消毒について検討し、次に消毒剤を用いた隔離飼育施設の防疫対策について検討した。防疫の対象施設は、用水が清浄で使用量が少ないために消毒が容易であること、屋内施設であることが多く隔離しやすいことから孵化施設とした。

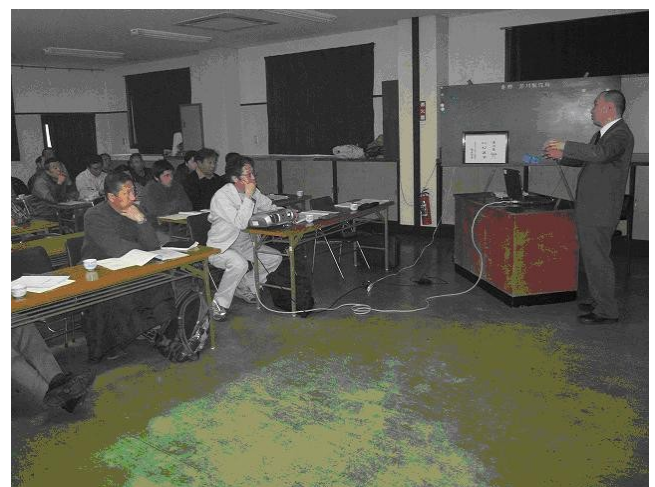
経験的知見として得られていた紫外線殺菌装置による飼育水の消毒について理論的裏づけをとって指針を作成した。効果が得られるように装置を設置するのが重要で、気温、飼育水の濁りに影響を受け、ランプの交換時期は厳守しなければならない。

消毒剤を用いた隔離施設の防疫対策については、医学や畜産分野の手法を養鱒現場に合うように検討した。イソプロパノールは IHN などの病原体に有効で、揮発性が高

いため、手指、用具、施設の消毒に有効である。塩化ベンザルコニウムは IHN などの病原体に有効で、安定性が高く、腐食性が低いので、施設、用具、長靴等の消毒に有効であるが、土や配合飼料の混入及び低液温により殺菌力は低下する。

中居部長の講演を受けて、養鱒業者から紫外線殺菌灯の向きと流れの速さはあるか質問があり、流れてくる水に充分量の紫外線が当たることが重要で、そのための効果的な配置が必要であることが説明されました。

防疫対策も長年行っているとルーズな部分が出てきてしまい、失敗することがあります。今回の研修会を期にもう一度各現場での防疫対策を見直して、病気の発生を防いでいただきたいと思います。(鈴木基生)



熱心に講演を聴く参加者

人事異動

転出

研究主幹 後藤裕康

→

くらし・環境部環境衛生科学研究所
大気水質部水質環境班長

転入

上席研究員 川合範明

←

産業部水産局水産振興室主査

転入者自己紹介

この4月の人事異動で、県庁水産振興室から富士養鱒場に転入となりました。県庁では、駿河湾深層水や漁村地域の交流活性化などの仕事を行ってきました。富士養鱒場では、主に試験研究の企画調整やにじますの品種改良などを担当することになりました。当场での勤務は2度目で、前は平成15～18年度の4年間在籍していました。毎朝、朝霧高原の清々しい空気を吸いながら、間近にそびえる富士山を眺めると、豊かな自然環境の中で働くことのできる喜びを感じるいっぽうで、昨今の需要不振、コ

スト高など養鱒業界の置かれている厳しい情勢の中、当场の果たすべき役割を考えると、県庁時代とは異なる緊張感を感じています。微力ですが、養鱒業の振興と河川環境の向上のために努力していきますので、皆様のお力添えをいただければ幸いです。



富士養鱒場の湧水と気象

月	天候（午前9時）：日数					降水量(降水日数) ：mm（日）		湧水量：万t/日	
	快晴	晴	曇	雨	雪	21年	20年平均	21年	20年平均
1月	11	14	5	1		28(3)	76(6)	3.1	3.8
2月	3	12	6	4	3	172(14)	86(6)	2.4	3.1
3月	1	9	16	4	1	291(18)	194(9)	3.9	3.2

日誌

- 1月 4日 仕事始め
- 19日 富士宮市立富士見小学校見学
- 20日 全国養鱒技術協議会運営委員会
養殖衛生問題調査研究成果報告会
- 21日 にじます祭り実行委員会
- 27日 太田川ダム水質調査
- 2月 3日 企業局長来場
- 3,4日 伊豆地域普及巡回
- 5日 漁業士会総会
- 8,9日 全国湖沼河川養殖研究会アユ資源研究部会
- 9日 黒田小学校、山宮小学校見学
- 12日 四本県議来場
- 15,16日 養鱒研究会
- 17日 知財先進都市事業連絡会
- 26日 実用化研究マス類生態防御推進会議
- 28日 佐久間ダム排砂促進事業見学会
- 3月 6日 アサヒビールエコツアー見学
- 7日 にじます祭り
- 15日 太田川ダムヒメマス放流会
- 23日 富士宮市合併記念式典
- 25日 魚病対策委員会
- 31日 生産業務連絡会